

# 子どものサインに気がいたら

まず、子どもに寄り添って話を聴きましょう。

「うんうん」「そうか」「なるほどね」と、子どもの話を受け入れて最後まで聴きましょう。

## 普段から何気ない話ができるような関係づくり

いじめられている事実がわかったとき

いじている事実がわかったとき

いっしょに解決する方法を考えましょう。

いじめは、いじている側に問題があるという姿勢で話を聴きましょう。

人格を否定するのではなく、いじめる行為が間違いであるという考えで話をしましょう。

「よく話してくれたね」  
 「毎日つらかったね」  
 「私はあなたの味方だから」  
 「あなたは大切な存在だよ」と  
 思っている気持ちを伝えましょう。



いじめるようになった経緯を聴いて、いじめを直ちにやめ、繰り返さないように話をしましょう。

「負けるな」「がんばれ」は、本人を助けることにならないので注意しましょう。

いじめは、いかなる理由があっても、許されるものではないことを伝えましょう。

家族だけで抱え込まず事実を整理して、学校等へ相談しましょう。

謝罪や和解は必要ですが、このことをきっかけに子どもたちがより良い関係を築いていけるように見守っていきましょう。

保護者の考え方や価値観も子どもの成長に影響を与えます。いじめについて、無関心、無責任な態度を示している、子どもは真剣に問題を解決しようとしません。保護者としてはもちろん、職場や地域、家庭の中で、一人の人間として、人を大切にしようとする自分であるか、温かい人間関係をつくらうとする自分であるか、見て見ぬふりをするような行動をとっていないかと振り返ってみることも、子どものより良い成長のために、意味のあることではないでしょうか。